

第5回 本町田地区小学校 新たな学校づくり基本計画推進協議会 議事録

開催日時	2024年3月27日（金） 18:00～19:55	
開催場所	本町田小学校 ランチルーム（ウェブ会議併用）	
出席者 (敬称略)	委員	末吉委員、渡辺委員、高柳委員、永山委員、日高委員、手塚委員、野口委員、越水委員、中瀬委員、小原委員、北澤委員、平本委員、本城委員、 ◎若月委員、大波多委員、望月委員、西山委員、○杉本委員、大谷委員 (◎：会長、○：副会長)
	事務局	教育総務課、新たな学校づくり推進課、施設課、学務課、保健給食課、 指導課、教育センター 玉川大学芸術学部
傍聴者	0名	

議事内容（敬称略）

学校教育部長 委員の皆様には、2023年5月に本協議会を設置して以来、全5回の協議会にご出席いただき、忌憚のないご意見をいただきながら議論していただいたこと、感謝申し上げる。

協議会では、通学に関することや児童の負担軽減、仮校舎の整備、校歌・校章の制作、歴史の継承など、様々な事項について具体的な検討を行ってきた。

今年度は通学路案の決定や、校歌・校章の制作、各学校が紡いできた歴史を継承するデジタル保存など、着実に取組を進めることができた。

来年度は、本町田東小学校と本町田小学校の統合を控え、通学路の安全対策や仮校舎の工事など、より多くの取組が進む年度であり、2025年度の4月に本町田ひなた小学校が開校する。

引き続き協議会において、保護者の代表の方や地域の代表の方、学校代表の方々と本事業の進捗状況を確認していくとともに、必要な意見交換を行わせていただきたい。

1 第4回推進協議会の振り返りについて

新たな学校推進課（資料1 説明）

2 報告事項

（1）新たな小学校の校歌・校章の制作について

新たな学校推進課（資料2-1前半部 説明）

中島教授

アート・デザイン学科という美術のデザインを学ぶ学科の中から16名、1年生から4年生まで、このプロジェクトに参加させていただいた。

こういう地域とのプロジェクトをやらせていただくという機会は、本当に私たちにとってありがたい機会であると思っている。小学校3校にお邪魔して、一緒に子

どもたちとワークショップをさせていただいたこと、これが本当に私たちにとって大きな学びだった。

博多講師

からは、実際に学生たちとともにどういった制作プロセスを踏んできたのかということを中心にお話する。

資料2－1のとおり、12月までの段階で意見募集を通じて児童と交流を行い、どんな校章をイメージしているかということで、その意見募集の内容、それを基に分類分けをしていくところが今回の制作の第1段階。この制作段階を大まかに本日までを振り返ってみると、大きく4つほど段階があった。まず、実際に調べていて知るというところ、それが第1段階だった

そして第2段階としては、実際に小学校に伺って場を知る、デザインした校章がどのような場で使われるのか、実際に使う子どもたちはどういった表情をしているのかを知るということが大きな課題だった。3校の先生方にもご協力いただき、本当に学生たちにとっても、そして願わくば、子どもたちにとっても、有意義な機会になったのではないかと、そう願っている。

そして3つ目に、それを持ち帰り、ラフスケッチなどをしながら、実際に作業をしていく中でキーワードを考えた。制作していく中で、校章をデザインするとなると、どうしてもデザイナーは絵を中心に活動しているように思われがちだが、皆様が何を大切にしていらっしゃるのか、また、アンケートでどういったフレーズが上がってきてているのかということを客観的に見るために、まず言葉で整理をし、そのキーワードに基づいて学生たちがこのキーワードでまとめていくといいんじゃないかということで話し合って、客観的に言葉で整理した。

そして、最後の段階で、今日お手元にお配りしているとおり、絵でものを考えるというところで、中心にするモチーフをどうするのかであるとか、文字を中心に配置したらどのように見えるのか、または、3校が集まっているという状態をどのように落とし込んで校章にしていくといいのかというような、その3つのパターンを中心に学生たちに考えてもらい、今回、3案を提案させていただく。

A班

1案目のデザインの方向性について、私たちは、子どもたちが本町田ひなた小学校でのびのびと成長してほしいと考えている。ひなたという名前から感じる温かさを含め、「のびのび」を主にイメージして校章を設計した。また、統合元の3校の歴史をつなげて発展していく学校であるという要素を含めようと考えた。

モチーフに関して、私たちは、子どもたちが育っていく場をイメージし、「葉」をモチーフとして生命力を表すことを目指した。葉は光合成するため、日光、すなわちひなたで栄養を得る点もモチーフとして適切だと考えた。

次に、形について、葉の右下の線の部分は、本町田ひなた小学校の「ひ」から発想して葉を表現した。また、統合元の3校を表すため、葉が3枚あるような形にしている。その際、統合元の3校の校章を参照し、内側から、梅、ゲンノショウコ、ケヤキをもとにデザインした。

字体について、「小」の字に関して、クレーというフォントを使用しています。クレーは、鉛筆やペンといった学校での学習と関係の深いものが意識されているため、親しみを感じやすく、手書きの温かさを感じられると考え、このフォントを使用した。

さらに、色は、のびのびと4色使用している。緑をメインとしているが、温かさを表現するため暖色も使用している。「ひ」や「小」の部分は認識しやすくするため、萌葱色という萌え出た芽が日を浴びたことを意味する濃い緑色を採用した。3本の葉の線については、内側から瑞々しい若葉を表す若緑、太陽を表す黄丹、輝きを表すジョンブリアンを使っている。

本町田ひなた小学校という場で栄養を吸収し、のびのびと成長してほしいという思いがよく表れたデザインとなつたかなと感じている。

B班

2案目について、金鳥は中国や日本の神話で太陽にすむカラスとして知られている。3本の足が生えているのがその特徴の一つだが、その3本と3校が1つに集まる様子を組み込もうという考えで金鳥が採用した。また、羽を広げている様子から、未来へ羽ばたくイメージ、そして雄大さや明るさ、美しさ、そういうものも含めた。

3本足でヤタガラスを想像する方がいらっしゃると思うが、全日本サッカー協会のロゴにも用いられているように、勝利の象徴として使われている部分もあつたりしてプラスな意味合いで使われていることも踏まえ、今回採用した。

次に、造形の工夫について、子どもの鳥が羽ばたく瞬間をイメージしたいと考え、頭部の大きい鳥になるようにしている。頭部が大きいと子どもらしい、子どもの特徴として頭が大きいというのがあるので、それをイメージして、このような形とした。

また、3本の足の部分だけ見ると小学校の「小」という漢字を彷彿させるデザインとしている。6枚の羽について、小学校の学年を表しているのと、6年間で育んだ考える力と人間性、これをそれぞれ意味合いとして含んだものとしている。

さらに、外側のシルエットは太陽をイメージしていて、オレンジと黄色で温かな太陽をイメージしているのと、このトゲトゲと丸いのを2つ合わせることによって、堅実・真面目さ、そして優しさ、そういうものも含めたデザインとした。

最後に、子どもの鳥が成長し、金色に輝く金鳥となって未来へ雄大に羽ばたいてほしいというものと、子どもたちが明るく元気に入々を照らす存在であつてほしい、こうした願いを込めてこのデザインを制作した。

C班

3案目について、町田第三小学校、本町田東小学校、本町田小学校の3校が集まるることを題材として、本町田ひなた小学校を象徴するものになるように、また、今いる子どもたちとこれから入学してくる新しい子どもたち、その両方を温かく迎えるようなデザインになるようにと、このデザインを制作した。まず、デザインのコンセ

プトについて説明させていただく。

3校が統合することに対して、子どもたちからは、新しい学校への期待だったり、今までの学校を惜しむ気持ちだったり、どちらも聞かれた。そこで、この校章は3校それぞれの個性を持ったまま新しい小学校になることをポジティブに表して、子どもたちの無限の可能性を示していくものになっている。また、この校章は、3校それぞれ分かれていた頃を知る子どもたちがいなくなても使えるものになる。そのため、統合する3校を表すと同時に、これから小学校に入学してくる様々な個性を持った子どもたちも、本町田ひなた小学校という温かいひなたに集まってほしいという気持ちで制作した。

次に、各要素に込めた意味について説明させていただく。

まず、太陽は子どもたちを温かく照らすひなたをつくるもので、太陽やひなたといえば赤いイメージがあると思うが、この校章は、よりひなたを意識して、赤より柔らかいオレンジ色を使用した。

また、小学校の「小」の字について、それぞれの鳥のくちばしの延長線上に位置していて、1点で交わるようになっている。これは3校と子どもたちのこれから道筋を表現しており、一番上で交わっている。

また、3羽の鳥について、羽ばたき方の違いで、歴史の違う3校が集まることと、これから入学してくる様々な個性を持った子どもたちのことという2つの意味を持たせている。同じように、鳥の種類を定めないことでも、3校の違い、そして子どもたちの個性を表している。

最後に、カラーデザインについて、濃いオレンジ色はひなたの暖かさ、鳥の枠線の水色は、広い空のような選択肢を表していて、「小」の字や鳥の白色は何色にも染まる子どもたちの可能性を表現している。

そして、このデザインは、モノクロで表現したときも、白と黒がはっきりと分かれることで、はっきりとした分かりやすいデザインになっている。

博多講師

以上3案が、学生たちと考えたデザイン案となる。幾つかあるアイデアの中から選んでいくということは、同時に何かのアイデアはどうしても選べなくなってくるという歯がゆい部分もあるが、この後、そういった部分も含めながら、ぜひご意見、もしくはお気づきになった点を伺いたい。

委員

3案目について、この鳥は何の鳥をイメージしたのか。

C班

具体的な種類は決めていない。あえて決めないことで、子どもたちそれぞれの個性だったり可能性だったりを表現している。

委員

とてもすてきな3案で、本当にもうどれをとっても子どもたちが素直にすっと入っていけるのかなと思う。質問としては、どれも良過ぎて決められない場合、例えばこことここの部分を組み合わせて、もう一度案を練っていただくとか、そういうことはお願いできるのか伺いたい。

博多講師

3案とも喜んでいただけて、とてもありがたい。例えば、3つ全てを集めるとなると、重ね合わせることで不要な要素が出てきてしまうということが想定される。た

だ、ここにあるこの要素という形で、なるべく言葉で絞って、この要素がこのマークにはないんだけれども、これを入れたらもっと良くなる、広がっていくんじゃないかというようなことでご相談をいただけたら、こちらとしてもデザインを前向きに考えたい。

中島教授

よく何かのデザインをお手伝いするときに、言っていただいたようなリクエストをいただいたりするが、全てを合わせたときに必ずしも良くなるかというと、駄目になってしまいというふうなこともある。うまくいかない可能性も含んでいるということで、ご理解いただければと思う。

委員

3案目について、恐らく「ひ」をデザインの中に組み込んだために、真ん中の文字が「小」という文字になったと思う。明るくて優しくて、優しい感じがすごく好きだが、この「小」が何となくちょっと気になって、本町田ひなた小学校のためにあるものにならないかなと思った。

A班

本来ならば、「ひ」を確かに中心に置きたかったが、「ひ」を組み込んだので、その上で「ひ」を置いてしまうと少し重複してしまう点がある。いただいたご意見を参考にこれからブラッシュアップしていく機会がありましたら検討したい。

中島教授

補足で、プロジェクトをやる前に、現在使われている町田の小学校の校章に関する資料を頂き、全部の図形を見ていったときに、意外に「小」という字が入っているケースがかなりあった。そういうこともちょっと学生のイメージに影響したかもしれない。

博多講師

実際にリサーチしていったときに、これは今小学校なので「小」と入っているんですけども、中学校だと「中」、高校だったら「高」と入って、学校の段階を真ん中で示して、周りのモチーフで、その学校の考え方であったり、モチーフの葉っぱであったりというようなものを添えていくというのがリサーチした段階であった。1案目を制作したチームにおいて、そういった考え方を踏襲した上での造形だが、ひなたであったり、いろんな文字の入れ方を実際に検討している段階でもあった。例えば、本町田ひなたと入れたほうがいいのか、「ひなた」と入れたほうがいいのか、もしくは「ひ」1文字なのかというところで、少しずつ削っていった段階で、「ひなた」と小学校の「小」が2文字残ったというかたちとなつた。

ただ、ほかの文字が来る可能性もまだあるんじゃないかというところで、引き続き検討を重ねてまいりたい。

委員

3案とも本当にすてきなご提案をいただいたと思う。地域として、もともとこの地域は梅林があって、梅というのはワンポイントみたいな、そんなイメージがあるが、昔から梅を生産しながらということで、そうすると、この1案目の流れる葉っぱをモチーフにしたデザインが、非常に流れがあって、「ひ」に対しての囲みで3校があつたり、何となくイメージとして、自分としては、いいなと感じた。

博多講師

歴史も踏まえて、そういった梅林などを考えていく段階で梅そのものをモチーフに取り入れたらどうなるのかであつたり、実際に梅をモチーフにした校章もある中で、それをどう取り入れていくのかというのは大変悩んだところ。

今回の3案は、小学校でワークショップを行い、学生たちの体験の中にも、子どもたちから体験とともに上がってきたモチーフで、鳥であったり、遊ぶときに自然の環境が周りにあるというところで、自然のモチーフを扱っていくということで現在の落としどころとなっている。「ひ」の周りの葉っぱのモチーフで重ね合わせているところを喜んでいただけて、大変うれしく思う。

委員 今お話にあった1案目で、なるほど「ひ」が入っていると聞いて、本当に納得した。また、2案目、私は見て一瞬で、ああ、ヤタガラスというふうに思った。余談だが、私のふるさとが和歌山県で、和歌山に熊野本宮大社というのがあって、そこにまさにヤタガラスがいる。どこかで見たなと思ったら、今、思わず画像で検索したんですが、ああ、首の向きが違うとか思いながら。その中でも足の形が小学校の「小」、なるほどと。そこは気づかなかった。そういうところまで考えていただいているんだなということを感じた。

何よりプレゼンが本当にすばらしくて、学生の皆さんに、大学の先生方も含めて、本当に真剣に考えていただいたのだなというのがよく伝わった。

3案目のデザインについて、今説明を聞いていろいろと納得した次第だが、真ん中の「小」の字が、私、見たときにそれが山にも一瞬見えて、山の頂上を目指して、またその山を越えていく小鳥、そういうふうな印象を受けました。子どもたちが高みを目指して飛んでいく。しかも、3校の、そういう印象を、私はこれをぱっと見たときに、説明も何も読まずに、真っ先に感じた次第です。なので、3案目も本当にすばらしいなと思って見せていただいた。

博多講師 率直なご感想も含めて、たくさんコメントをいただけてうれしく思う。今回プレゼンテーションということで、学生たちのコメントも併せてご覧いただいているが、実際選んでいただいたて使うとなると、本当に第一印象でそれがどう見えるかということがとても大切になってくる。後日にでも、初めてそのマークを見ていただいてどう感じたのかという感触をぜひお聞かせいただければ、ありがたい。

新たな学校推進課 (資料2-1後半部 説明)

新たな学校推進課 (資料2-3 説明)

教育センター (資料2-4 説明)

委員 今、本小に通われている固定級のお子さん方の通学は、保護者の方が送られているケースが多いのか。それとも、子どもたち自身で来ているお子さんが多いのか確認したい。

委員 基本、町田市は徒歩通学が原則。指定された学区外から指定校として本校を選んだご家庭のように、遠方になってしまふケースに関しては、原則、バスであったりとか公共交通機関を使っていただく。

委員 本東の跡地に新しい学校が出来上がったときに、恐らくご家庭から同様の話が出てくると思う。いろんな課題がある中で、子どもたちが来たいと願っていてくれるのであれば、一人でも多くの子どもたちが新しい学校で学びを得られるような配慮をしていただきたい。

新たな学校推進課 (資料 2－5 説明)

新たな学校推進課 (参考資料説明)

統合校の生活時程や決まり事、あとは特色ある教育活動の調整等については会長からご説明いただく。

会長 現在、学校統合に向けて、2025年度に統合を控える本町田地区と南成瀬地区の5つの小学校の校長が集まって、進捗の共有や進め方についての検討を行っている。

統合に向けた基本的な考え方の一つとして、一方の学校に寄せるのではなく、新しい学校をつくるという意識を全ての教職員が持つという考え方に基づいて、統合を進めている。具体的には、検討項目ごとに部会を設けて、その進捗管理は5校長の集まる全体会で行うという建付けとしている。今後、7月から冬休みまでの期間で各部会において詳細な内容を決定し、統合に向かうという流れで検討を進めており、生活時程や決まり事、教育活動についても、各部会で検討していく。

新たな学校推進課 次に、保護者組織の合流について、保護者代表の委員からご説明いただく。

委員 今年度中に3校の保護者の今PTAをやっている現役員で集まり、新しい学校でどういう組織の在り方がいいのだろうかというところを少しずつ議論を進めている最中である。現状のPTAに対してどういうふうに感じているか、どんな形であることが保護者の現状——例えば就労であったり、介護とか育児とか、いろんな状況を抱えている保護者の現状に合った形でつくっていかないと、結局存続不可能というか、やらされ感というか、いろいろな不都合がある今、もっと新しい形をつくりたいということで、そもそも皆さんどう感じているんだろうかというところで、アンケートを実施した。

こちらは、在校生と今度入ってくる1年生の入学者説明会のときにアンケートのQRコードを配布し、3校合わせて275件の回答を得たという状況である。この回答の方向性だったり、この回答をどのように生かしていくかということについては、次年度また話合いをしていく予定である。

新たな学校推進課 (参考資料説明)

委員 新たな学校の具体的な計画、建屋に関しての話がどこまで進んでいるのか教えてほしい。

新たな学校推進課 現在、PFIという方式をとって、参加事業者を募っているところであり、最終的には9月に契約をする予定。

そこで事業者から、こういった建物の提案とかこういった学校の使い方をすると

いうところが入ってくるため、少なくとも9月以降に、そういった具体的な絵とか、もしくはスケジュールをお示ししたいと思っている。

委員 検討会の段階では幾つかの案があったが、あの時の案を基にしてという形で話は進むのか。

新たな学校推進課 前に示した3案は、新たな学校の仕様などを考えていくに当たって、委員のみなさまが大事にしているポイントや懸念というものを洗い出すために、あくまで仮の案として作成したものとなる。

委員 3章1番の施設整備の建設スケジュールについて、2027年の年度内で完成、そのスケジュールでできるのか。

新たな学校推進課 業者を募集する際には、開校月をいつということを目標にしてスケジュールを立てた提案をしてくださいということを出しているので、基本的にはそこに間に合うようにする。

委員 道路など延期がある中で、本町田ひなた小学校の開校は、このスケジュールで可能なのか。

新たな学校推進課 28年度の開校を条件として事業者に提案することを求めているので、事業者が提案してきた時点で、開校日に合わせたスケジュールでないと、そもそも契約できない。

会長 本日は年度内最後の推進協議会となるので、委員の皆様から一言ずつご挨拶をいただきたい。

委員 いよいよ本町田小学校もあと1年。残りの1年間、子どもたちが楽しく過ごせるように、新しい学校への希望も持ちながら過ごせて、一緒に考えていけたらなと思っている。

委員 これから入る子どもたちに、本当にいい学校だねと言われるような学校を作る、そんなことを引き続き皆さんで考えられればいいかなと思っている。

委員 これからのお子様たちのために協力できることはしていきたい。

委員 2007年から、ボランティアその他いろいろ、ほぼ毎日のように学校に来ていまして、今年17年ということになる。非常に思い入れというか、複雑な気持ちは決して拭えない一方で、子どもたちの目から見れば、新しい学校、新しい施設、新しいお友達ということで、ぜひいい思い出をつくってもらいたいなというふうに思っている。

委員 今年度はらくらく登校だったり、バスの乗り方だったり、校歌・校章の取組で児童を巻き込んだ活動がたくさんあって、進んでいっているなというのを実感している。来年度も具体的にどんどん進んでいくと思うので、力になれたらと思っている。

委員 2021年度のスタートから関わらせていただいており、我が子がついに卒業する。前途多難だと最初は思っていたが、すごく皆さんにいろんなことを教えてもらいながら、そして地域の方々にいろんなことを教えてもらいながら過ごすことができた。これからも町田の子どもたちのために子どもファーストでよろしくお願ひしたい。

委員 私もとにかく新たな学校づくりの方々が、先ほど荷物らくらく登校の言及もった

が、いろんな取組を主導で進めている中で、やっぱり学校側も協力していかないと、と考えていた。また、先ほど子どもファーストという言葉があったが、子どもを中心に考えていく中で、学校がバックのギアを入れてしまってはいけないというふうに常々思っていた。そういう意味では、来年度以降も、子どもたちのためにこの取組を何としても成功させていくんだ、いい方向へ持っていくんだというつもりでやつていきたい。

委員

いよいよこの4月に東小の子たちは、自分が次に行く学校を決めなきやいけないという時期に差しかかっている。保護者としては、今まですごく前向きに、新しい学校をつくるという気持ちでやっていたが、今、不安しかない。4年生で最後の1年間を過ごす学校が、もう5年生ではばらばらになってしまいういう状況が目の前に迫っていて、何かすごく切ない気持ちのほうが実は大きい。子どもたちは結構前向きに、新しい友達つくりたいという感じで捉えているので、何か切ない気持ちもありつつ、この節目に出会えたということを前向きに捉え、やっぱりいい学校をつくっていけるように、来年も頑張っていきたい。

委員

3つの学校、それぞれいろんな特徴があって、やっぱりうちの学校が一番という思いがあると思うが、そのいいところを3つ集まつたら3倍にいい学校になったというような形になってもらえたならとも思う。それを地域として応援しながら、子どもたちに新しい学校にわくわくというふうな気持ちで向かってもらえるように応援していきたい。

委員

最初どうなるかなと思っていたが、教育委員会の方を中心に、市民のいろいろな意見があった中で、よくぞここまでまとめたとお伝えしたい。一住民として、私たちの地域のよりどころの新しい学校、まして、子どもたちの新しい学び舎として、新しいまちづくりをすごく楽しみにしている。

委員

昔から学校は地域の方に助けていただいたなという思いがあった。本町田の子どもたちはすごく愛されて幸せだなと思っている。今、自分が地域の人として学校づくりに携わることがとてもうれしい。

委員

計画段階から話合いに加わらせていただいて、実際、要するに学校の現場の人間として、本当にいよいよなんだなというふうな思いでいっぱい。後ろ向きに捉えるのではなく、前向きに捉えていくこうと考えている。そういう意味では、みんなで手を合わせて進めていく必要が、もう来年度は間違いなくあると思う。

委員

地域の皆様がとっても子どものことを考えて学校づくりをしてくださっているという思いも見え、らくらく登校を含めていろいろ、新たな学校づくりの方とも一緒に活動することがあり、本当に子どもや地域の皆様のことを考えて動いてくださっているということが分かった。新しい学校ってこうやってつくられていくんだと、すごく楽しかった。これからいろいろあるとは思いますが、また微力ながらも力を出していけたらと思っている。

委員

皆さんと、いろんなお話ができ、すごくうれしかった。こういう考え方があるんだな、こういう見方があるんだなと、たくさん発見があった。民生委員として地域で

活動しているが、引き続き地域の子どもたちを見守っていきたい。

委員

会の冒頭、歴史の継承といって、本町田小学校のデジタル保存の映像が流れていったが、今はこんなことができるんだと感動した。子どもたちも、きっといい思い出になると思うし、後から振り返られるんだなと思う。今日の校章をつくる玉川大学の方たちも、本当に子どもたちのことを考えているんだなと、あれもとても感心した。こういう新しい学校をつくるという場に私も参加させていただき、幸せに感じている。

委員

まず、本町田の歴史、そして3校の歴史を大事に思い、忘れることなく、これからも新たな学校づくりに協力し、子どもたちのために頑張っていきたい。

委員

町三小を卒業したので、委員委嘱の話をいただいたときは、正直とても複雑だった気持ちと、あと同時に、協議会委員とは一体どのようなことをして、また、これからどのようなことをしていくのか、右も左も本当に分からぬ状態で来た。1年間携わってみて、たくさんの地域の方の思いに触れることが出来て、自分自身、また子どもたちのためにも、一歩成長できたような1年間だった。

委員

今日の校歌・校章の話、校章の3つのデザインを見て、ああ、やっぱり新しい学校になるというのを感じ、感慨に浸っているところである。

PTAにもご協力いただきながら、子どもたちが頑張り、本東小の学校に大壁画が完成した。そこに、ありがとうという言葉が書いてある。あと1年間という気持ちで、新たな学校へ移動する準備をもう開始している。引き続き、皆さんと一緒にこの取り組みをすすめていきたい。

会長

話合いを通して、いい地域だなと改めて思った。来年以降も、皆さんのいい学校をつくっていこうという熱い気持ちをしっかりと胸に留めて、頑張っていきたい。